

京都会館再整備工事基本設計



疏水側ドローリング

日本を代表する建築家である前川國男によって昭和35年に造られた京都会館は、京都・岡崎地域に建ち、京都の建築・都市の伝統を生かしつつ、20世紀近代建築の理念を実践した戦後のモダニズム建築の傑作である。この建築は日本建築学会賞等、数々の賞の受賞が示すように、専門的に高い評価を与えられただけではなく、広く市民にも愛されて今日に至った。その建物価値を後世に引き継いでいくことが大切なことは、専門家のみならず京都市民の多くが認めているところである。

一方で、築後50数年を経たこの建物は、各所で老朽化が進行しているだけでなく、会館としての機能が、今日求められるものと大きく隔たつたものとなっていることは、誰の目に見てもあきらかなものとなった。機能を重視する近代建築は、今回の検討委員会の議論でも繰り返し論ぜられたように、「使われてこそ価値がある」のであって、これまで市民に愛されてきた建物を、これからも長く愛されるものとして保つためには、必要にして適切な手入れを持続していかなければならない。

モダニズム建築は、求められる機能を充足することによって生み出されるものであるが、時代によって求められるその機能が変わった時に、機能向上を図りつつ、その建物価値を継承する再整備には、伝統的な様式建築の改修とは異なる、新しく、かつ困難な問題がある。これまでの数多くの歴史的建築物が示しているように、保存再生されつつ生き続けることは建築芸術の本質であり、また優れた保存再生とは、単に老朽化した部分を補修することではなく、時代毎の新しい価値を、古い価値の上に重ねていくことでなくてはならない。伝統を保存し収藏するだけではなく、生かして育てていくことこそ、歴史都市京都の公共建築において求められているのである。今回のケースは、この困難な問題に正面から挑む日本で最初のチャレンジになると考える。

香山壽夫建築研究所 香山壽夫

京 都 市



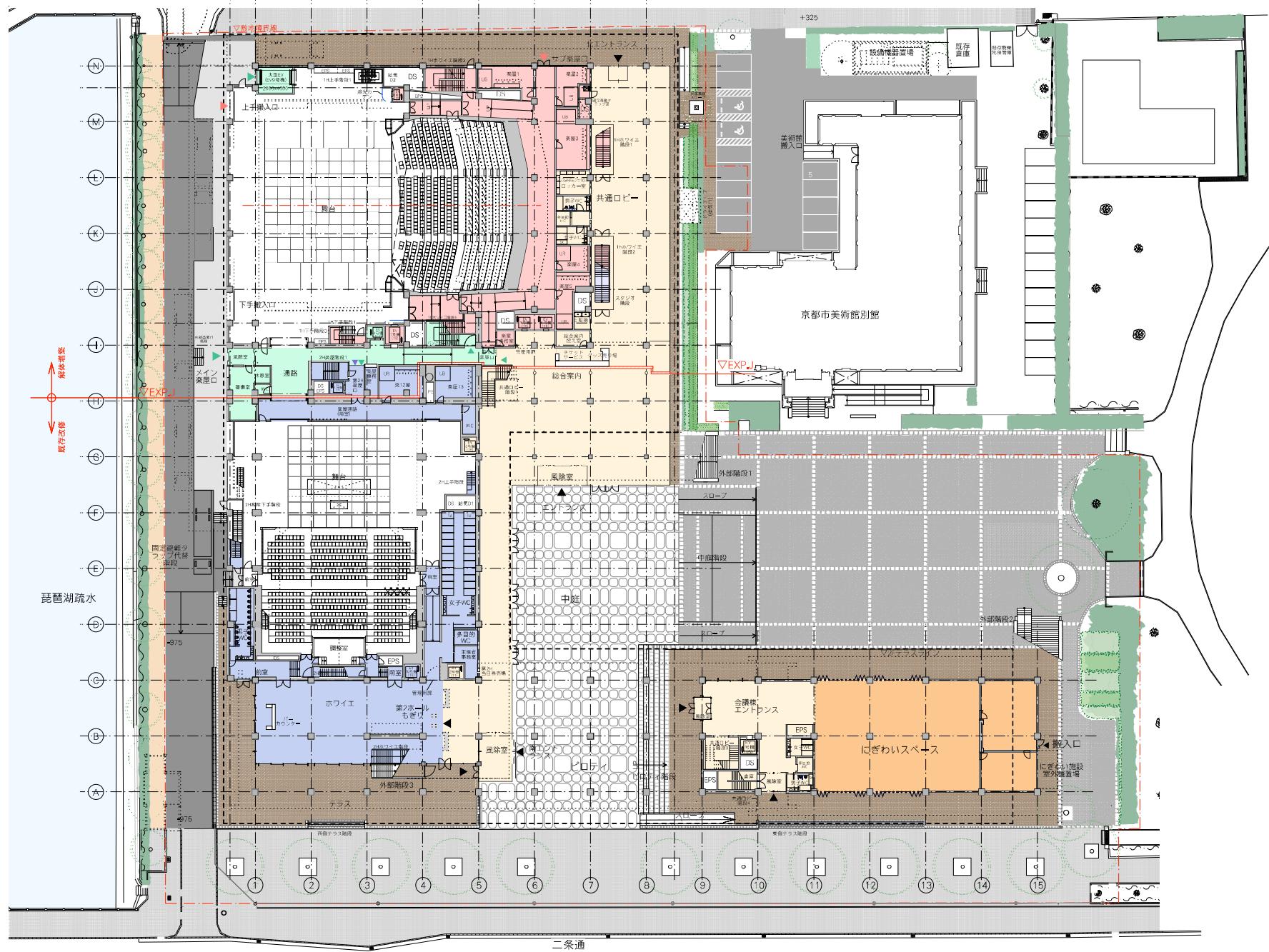
鳥瞰パース（南西から）



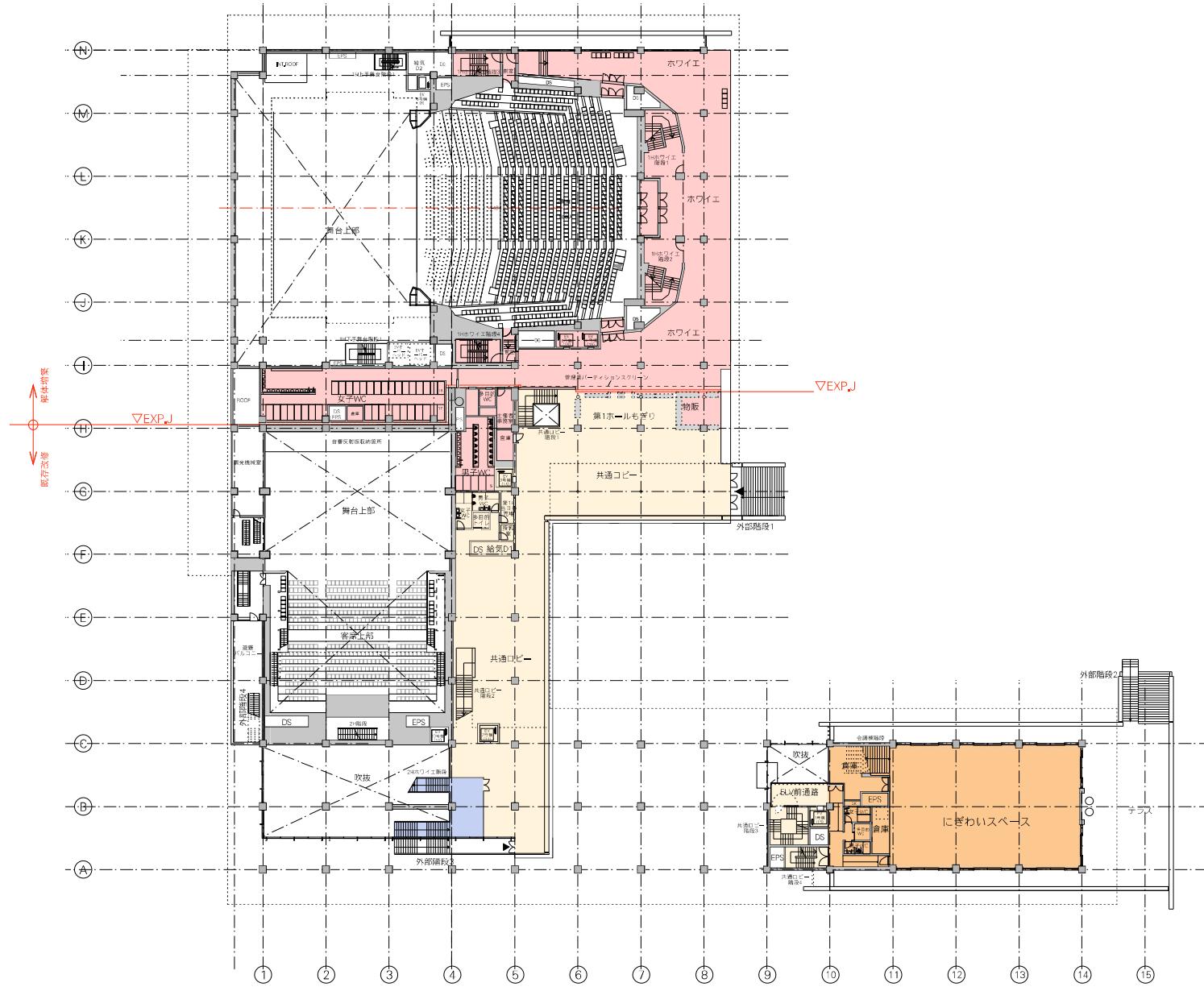
パース（二条橋附近から）



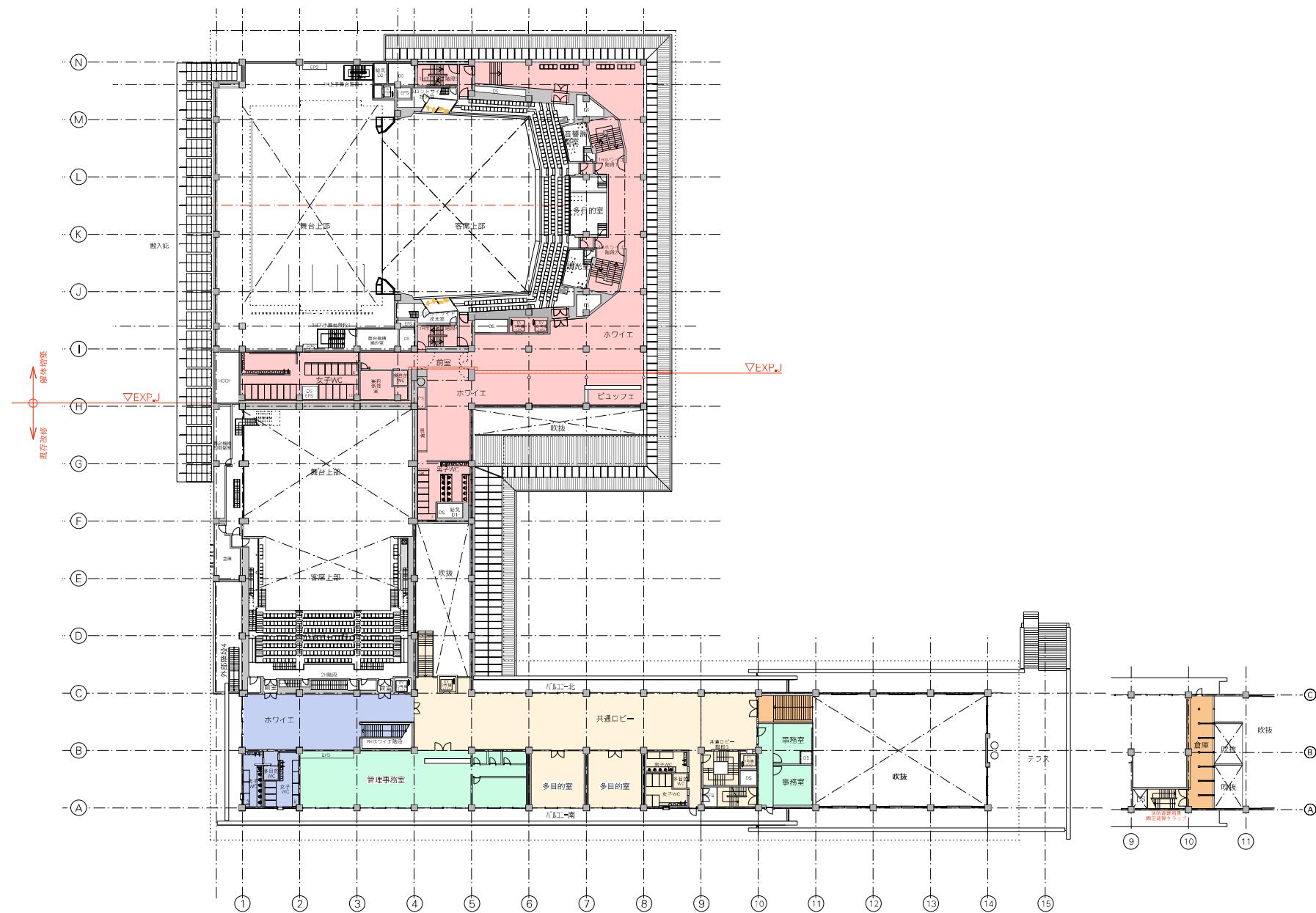
パーク（ピロティから）



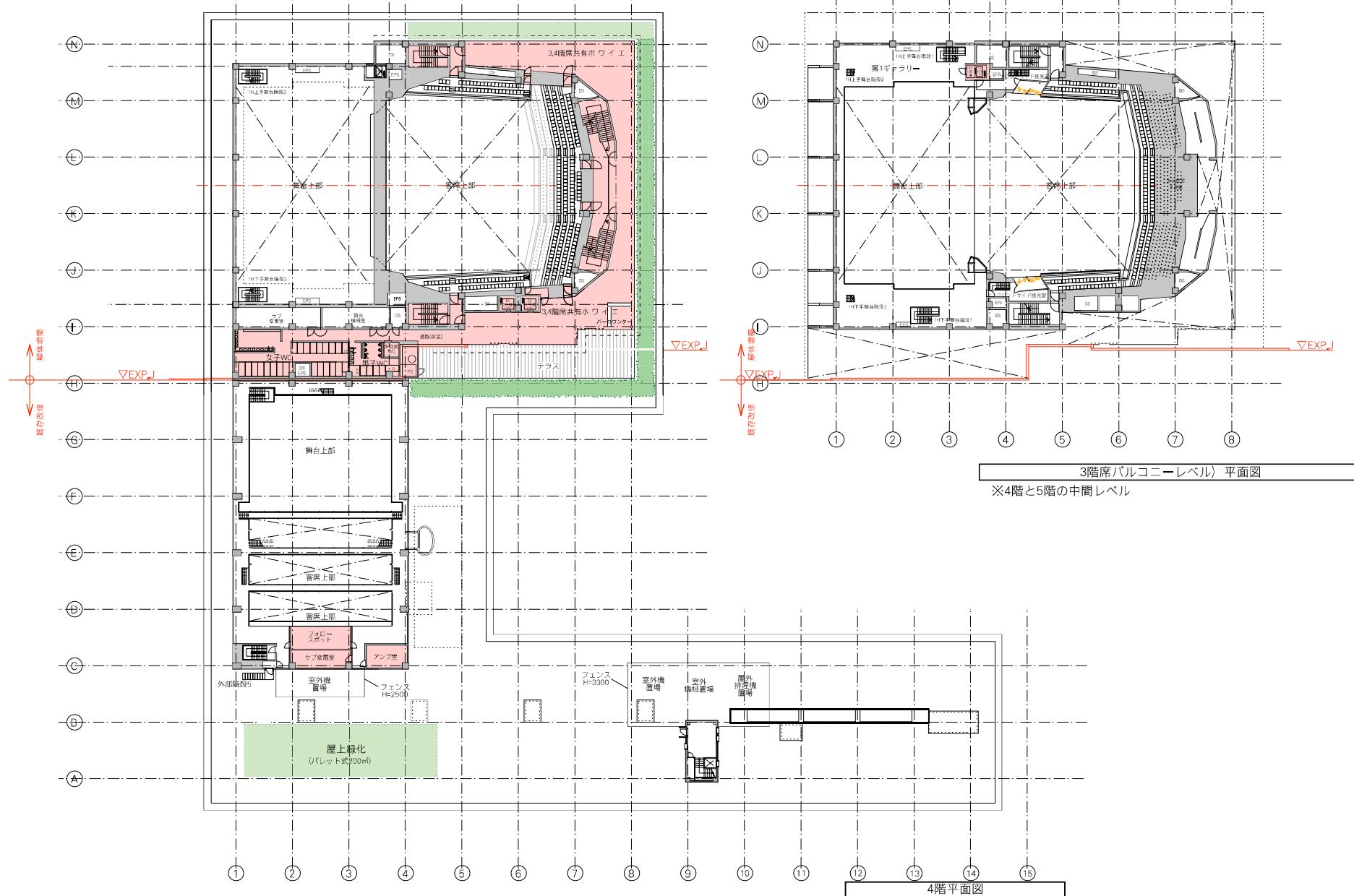
配置図・1階平面図

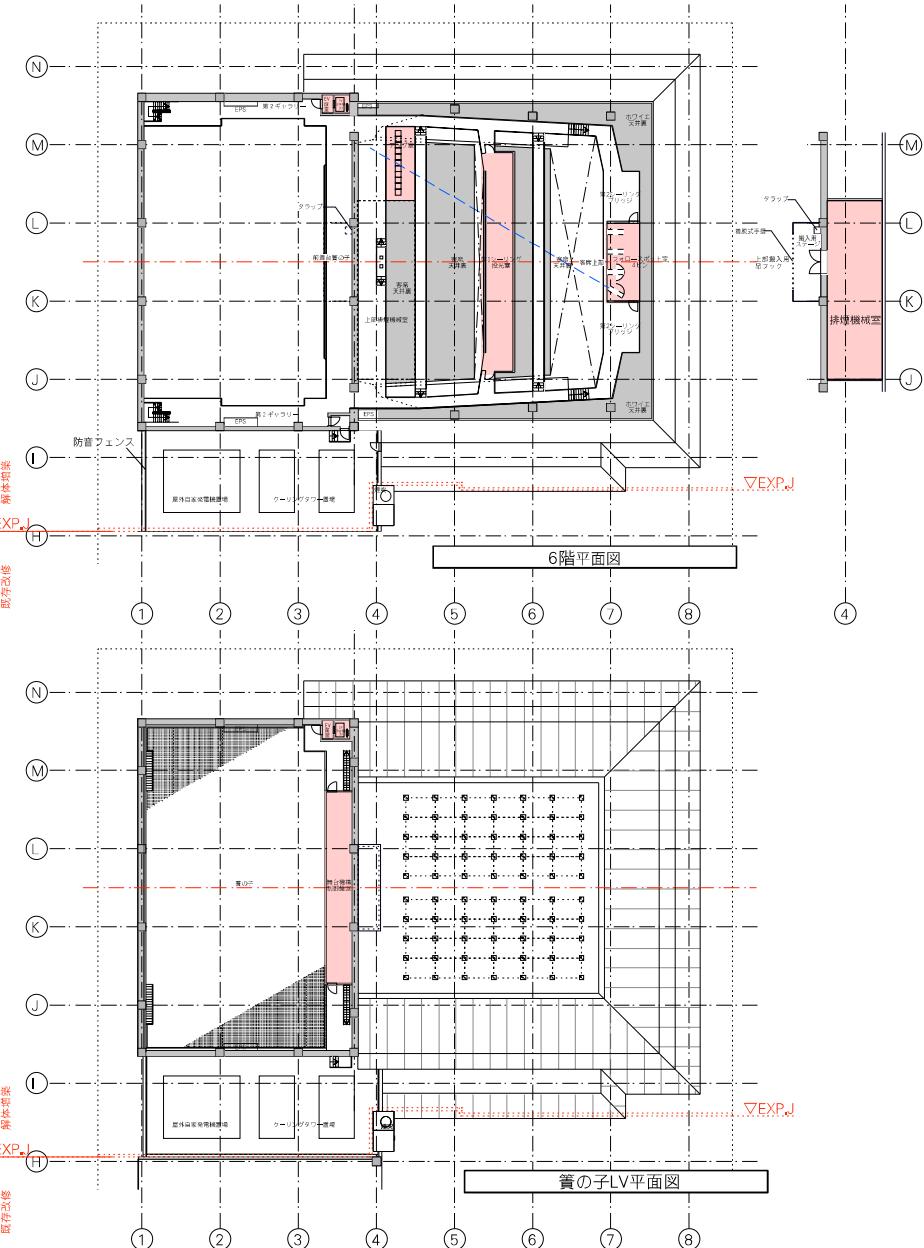
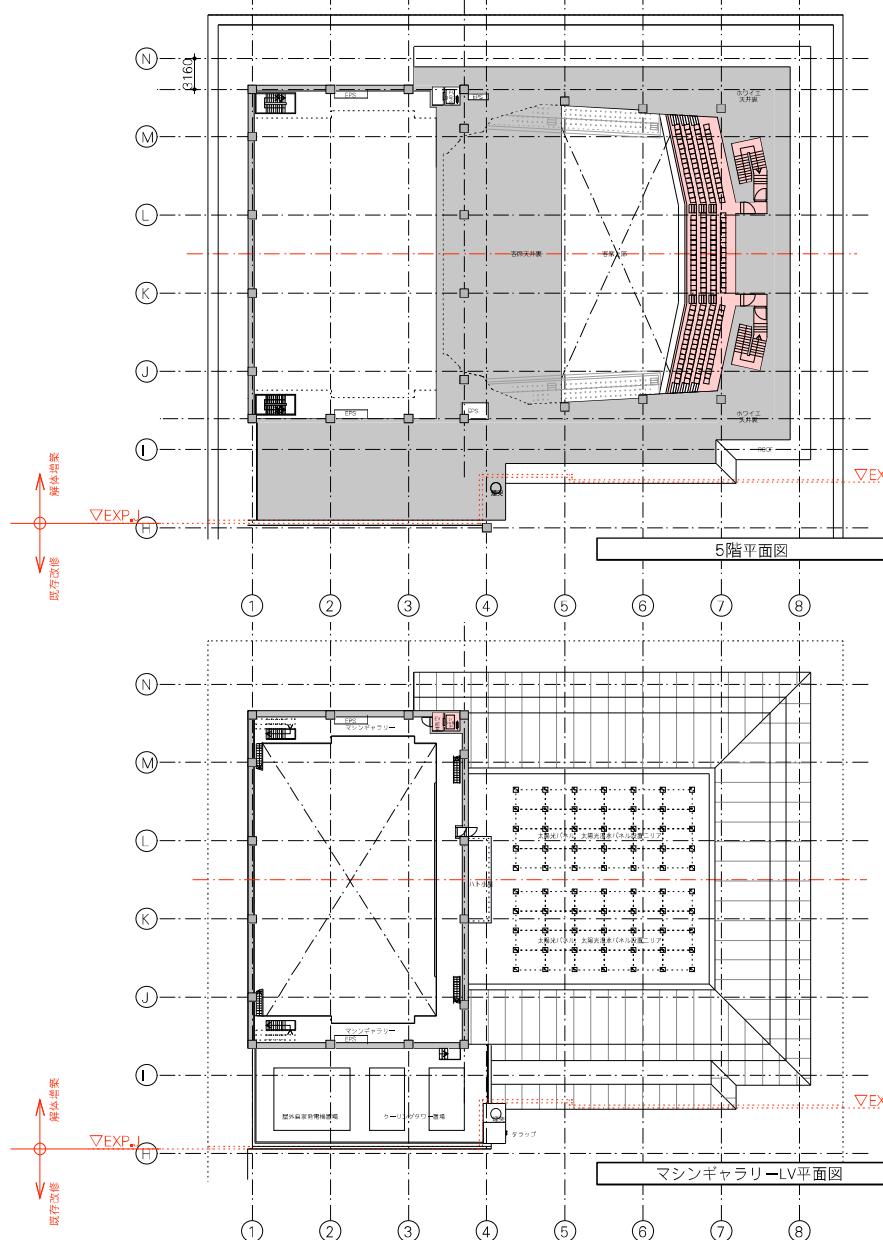


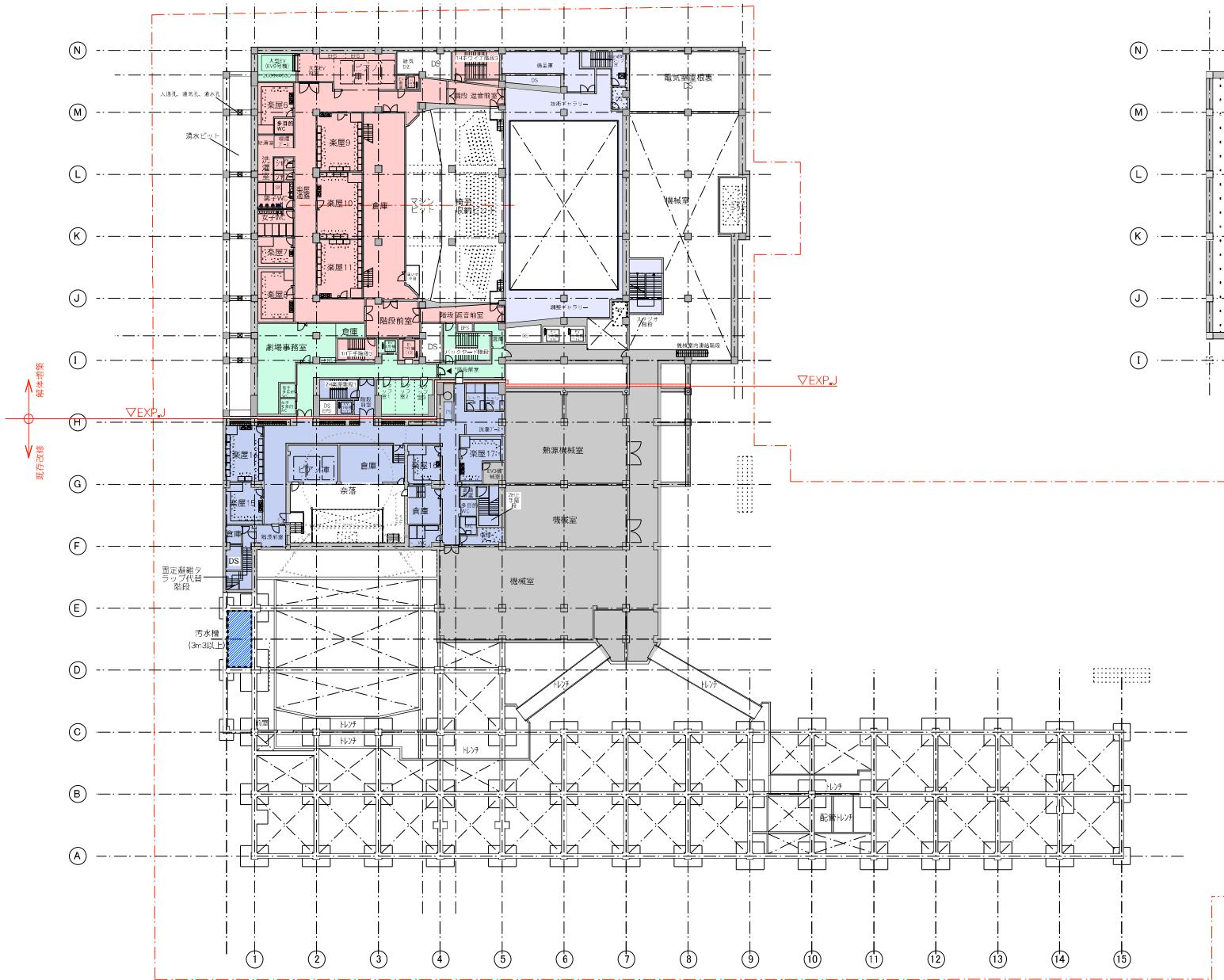
2階平面図



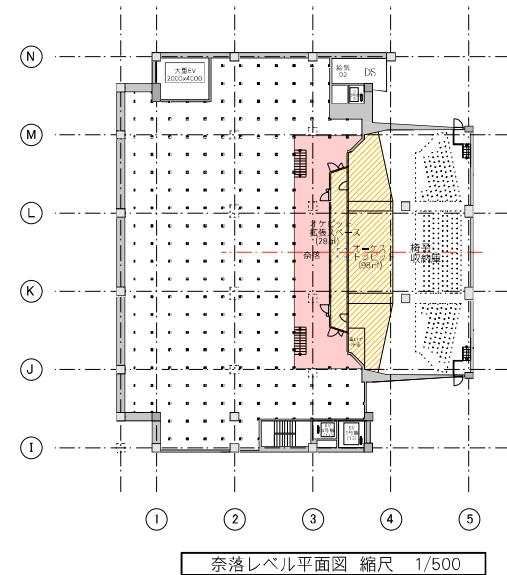
3階平面図

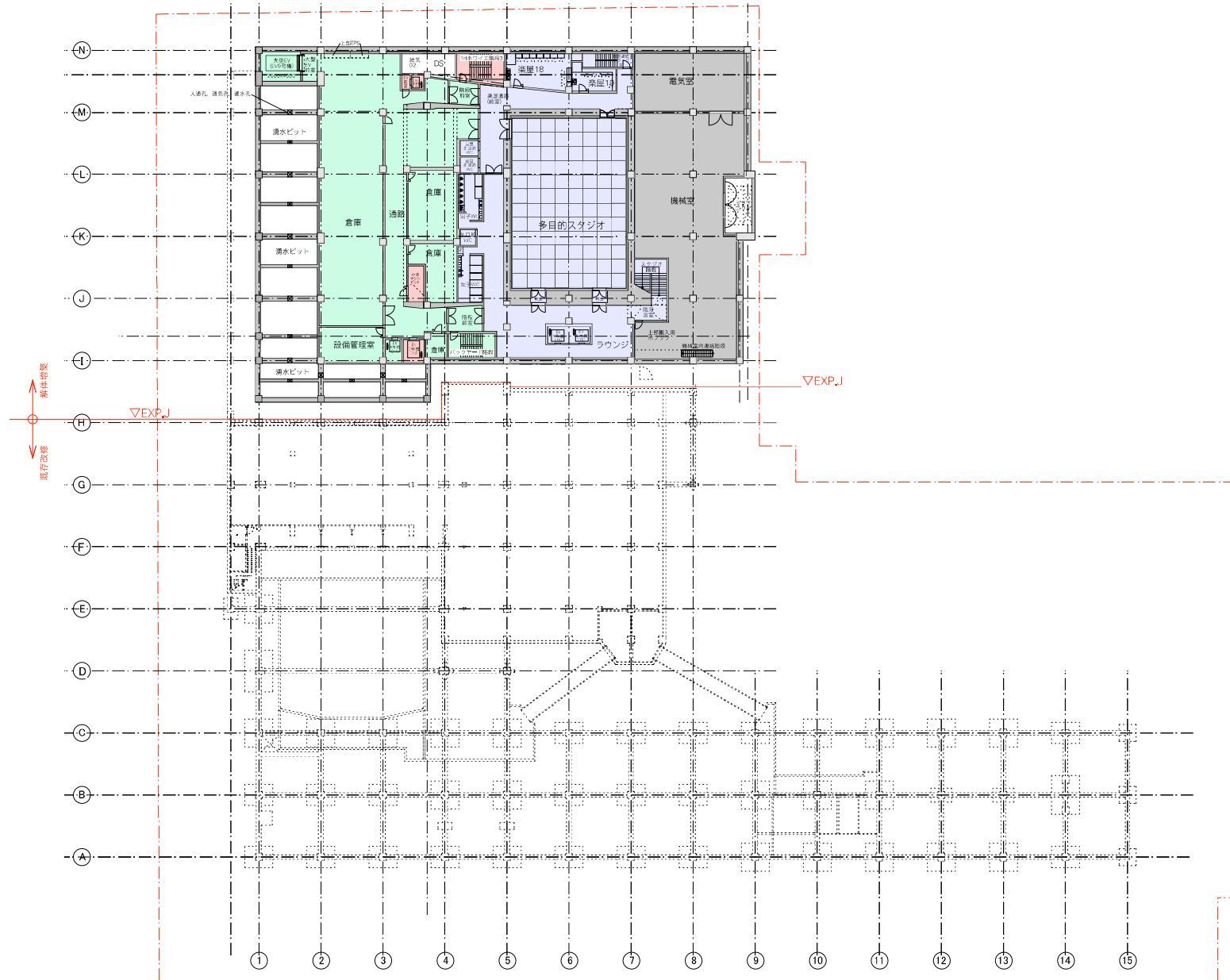






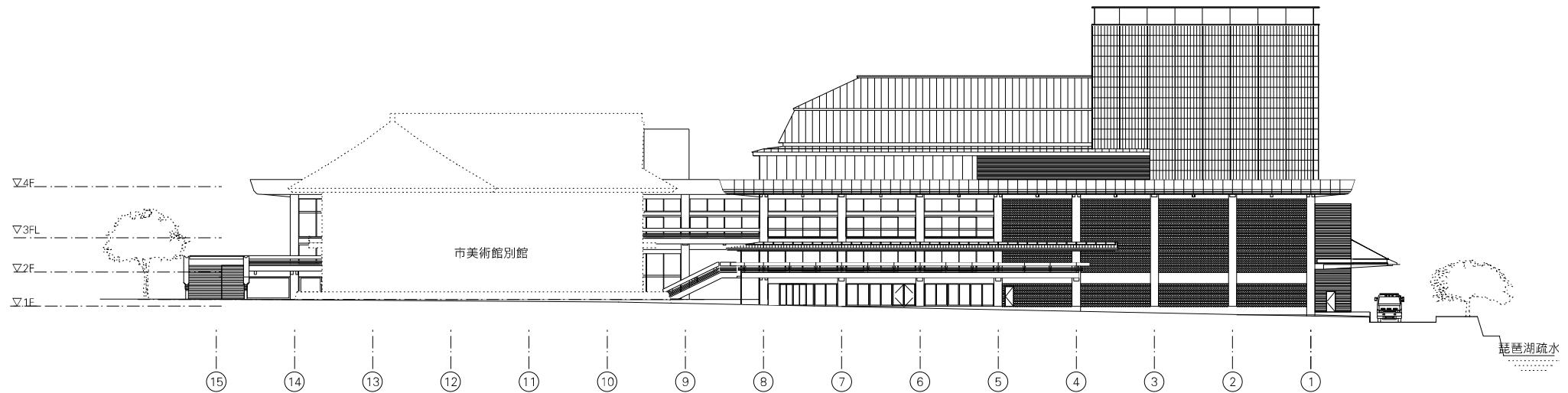
地下1階平面図



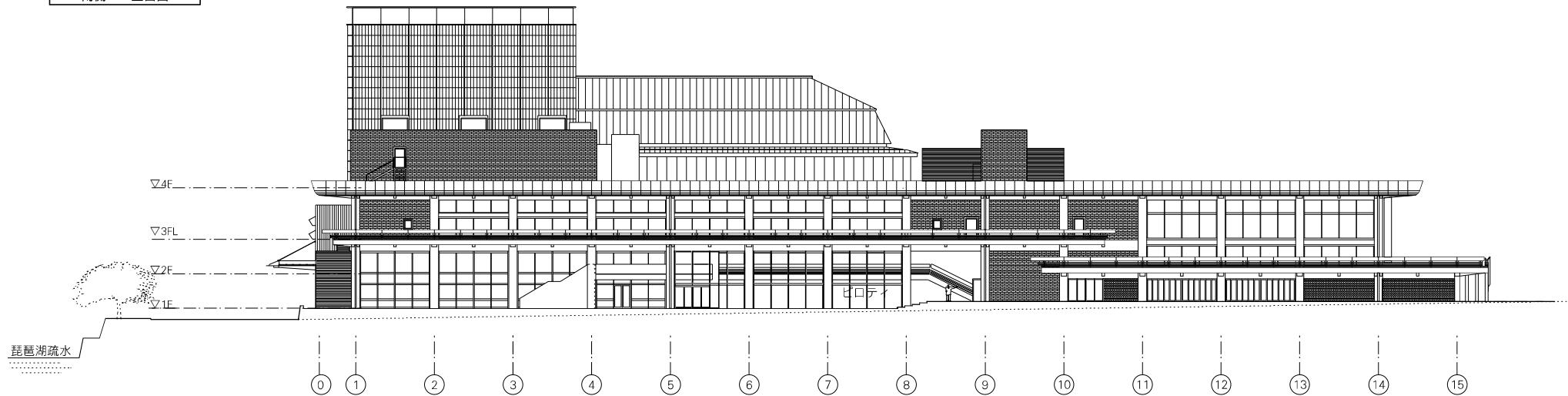


地下2階平面検討図

北側 立面図



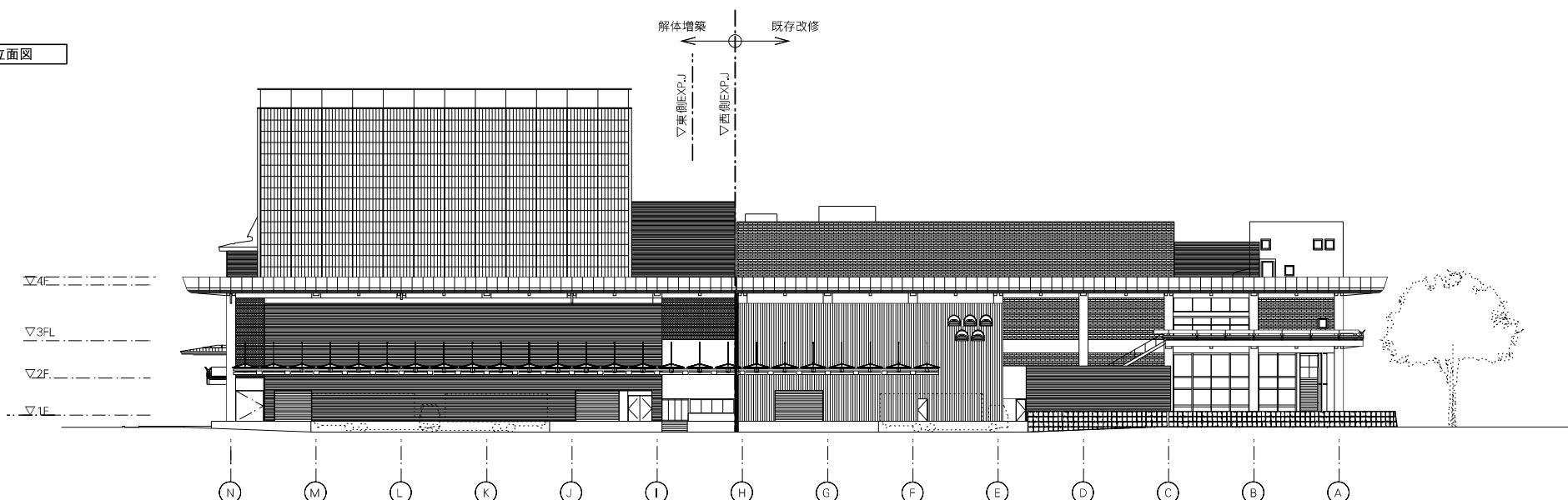
南側 立面図

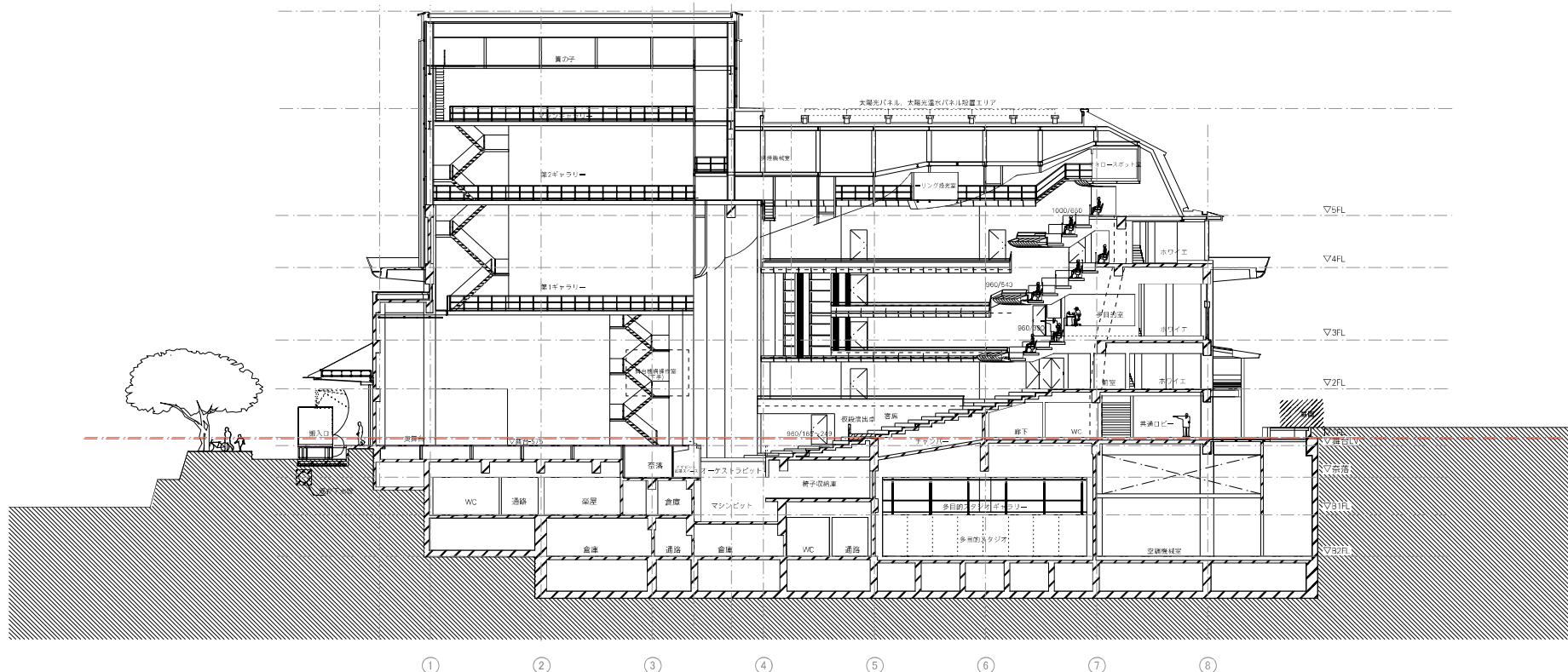
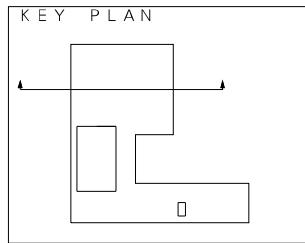


東側 立面図



西側 立面図





第一ホール断面図